1 研究の概要

(1) 研究主題

生きて働く「知識」を身に付ける音楽科の授業づくり
 ー児童の考えを可視化する指導を通してー

(2) 主題設定の趣旨

○新学習指導要領で求められる小学校音楽科における「知識」についての考え方

新学習指導要領（平成29年3月公示）では、育成すべき資質・能力が三つの柱で整理され、小学校音楽科で育成を目指す「知識」が「曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解すること」と示されました。中央教育審議会の『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』〔以下、答申（H28.12）とする〕では、小学校音楽科における「知識」の具体的な内容は、「曲想と音楽の構造との関わりについての理解」⁽¹⁾と「音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解」⁽²⁾と整理されており、これらの知識を「一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくもの」⁽³⁾にすることが求められています。また、「新たな学習過程を経験することを通じて、知識が更新されていくこと」⁽⁴⁾が重要であるとし、「知識」を一般概念の習得にとどめず、更新していくことのできる、いわゆる生きて働く「知識」にすることが求められています。

○小学校音楽科における「知識」の具体

一方で、小学校における実際の指導では、これまで音楽科の「知識」が明確にされてこなかったため、現在の指導内容と「知識」との関連が見えにくい現状にあると言えます。

しかし、小学校音楽科における「知識」は、〔共通事項〕に関わって、これまでに指導してきた内容と大きく関連していると考えられます。具体的には、〔共通事項〕ア「音楽を形づくっている要素のうち、『音楽を特徴付けている要素』及び『音楽の仕組み』を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること」とは、「曲想と音楽の構造との関わりについての理解」につながるものであり、〔共通事項〕イ「身近な音符、休符、記号や音楽にかかわる用語について、音楽活動を通して理解すること」とは、「音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解」につながるものと考えます。したがって、児童が新学習指導要領で求められる生きて働く「知識」を身に付けるためには、従来の〔共通事項〕を支えとした「聴き取り、感じ取ったことを基に思考・判断し、表現する」という一連の学習過程を基盤として指導を行う必要があると考えます。そして、音楽活動の中で「知識」を役立たせたり、新たな学習過程で「知識」を更新したりする経験を通し、児童自らが「知識」に価値を見だし、それらの「知識」を生活や社会の中で生かすことのできるものにしていく必要があると考えます。

○本研究の目的

そこで本研究では、児童が新学習指導要領で求められる生きて働く「知識」を身に付けることができるように、前述の一連の学習過程で児童の考えを可視化する指導の工夫を行います。

生きて働く「知識」を身に付けた児童とは、「曲想と音楽の構造などとの関わり」や「音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働き」について、自分のイメージや感情等と関連付けながら自分なりに理解したり、「知識」を音楽活動の中で生かしながら更新したりすることができる子供と考えます。このような力を身に付けさせるための指導の手立てとして、ワークシートを用いて児童の考えを可視化すれば、児童は、「知識」を自分なりに理解したり、音楽活動の中で生かしながら更新した

りする過程を自らで見取ることができると考えます。また、教師は、児童が自分なりに理解した「知識」の内容や、それらが更新される過程を見取りながら、一人一人に応じた適切な評価を行うことができるようになると考えます。そして、それらのことにより、児童は生きて働く「知識」を身に付け、学ぶことに意義を感じたり、「知識」に価値を見いだしたりできるようになると考えます。

以上のことから、児童の考えを可視化する指導の工夫を行うことにより、新学習指導要領で求められる生きて働く「知識」を児童が身に付ける音楽科の授業づくりを行いたいと考え、本主題を設定しました。

(3) 研究の目標

小学校音楽科教育において、児童が、生きて働く「知識」を身に付けるために、〔共通事項〕を支えとした「聴き取り、感じ取ったことを基に思考・判断し、表現する」という一連の学習過程で、児童の考えを可視化する指導の工夫をする。

(4) 研究の仮説

小学校音楽科において育成を目指す「知識」の内容を明らかにし、〔共通事項〕を支えとした「聴き取り、感じ取ったことを基に思考・判断し、表現する」という一連の学習過程でワークシートを用いて児童の考えを可視化すれば、児童は「曲想と音楽の構造などとの関わりについての理解」や「音符、休符、記号や音楽に関わる用語の意味や働きについて音楽活動を通じた理解」について、自分のイメージや感情等と関連付けて自分なりに理解したり、音楽活動の中で生かしながら「知識」を更新したりできるようになるであろう。

(5) 研究方法

- ア 生きて働く「知識」を児童が身に付ける指導方法についての理論研究
- イ 「知識」の理解と、習得した「知識」の価値について児童を対象とした質問紙調査の実施
- ウ 小学校高学年の児童を対象とした考えを可視化させる指導の工夫を行った授業実践

(6) 研究内容

- ア 文献調査を通し、「知識」の内容を明らかにするとともに、児童が生きて働く「知識」を身に付ける指導方法と、児童の考えを可視化させるワークシートの取り入れ方を探ります。
- イ 小学校6年生の児童に対して、「知識」の理解の程度と、音楽活動を通して習得した「知識」の価値についての質問紙調査を実施し、児童の実態を把握します。
- ウ 授業実践を通し、「聴き取り、感じ取ったことを基に思考・判断し、表現する」一連の学習過程で考えを可視化させる指導の工夫について、その有効性を検証します。

《引用文献》

- (1)(2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）』 平成28年12月 第2部第2章7
- (3)(4) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）』 平成28年12月 別添8-1